




Health & Welfare



## Bridging the Gender Gap in Healthcare: A Sex-/Gender-Specific Medicine App in Development



March 7, 2025

▶ 0:00  1x  [PDF >](#)

### 医療におけるジェンダーギャップの解消：性差医療アプリの開発

近年、同じ疾患でも性別によって症状や治療効果に違いがあることが明らかになってきた。そこで、男女の生理学的・社会的な違いを考慮した「性差医療」が米国を中心に始まり、日本でも性差医療を実践する女性向け健康管理アプリの研究開発が進められている。



WaiSEの研究開発には、多数の医師、統計やデジタル医学の研究者の他に、看護師、メディカルライターなどとして活躍してきた女性たちが研究員として参加している。

医療の進歩は人々にさまざまな恩恵をもたらす。しかし、妊婦の薬害防止のため、また女性はホルモン周期等により実験結果にぶれが生じやすいという懸念から、医学研究者が臨床試験などを実施する対象は男性に偏りがちだ。そのため、同じ疾患でも性別によって罹患しやすさや症状、服薬による治療効果などに差があることが、長いあいだ明らかになっていなかった。また、性別によって患者を取り巻く環境や直面する課題、考え方やコミュニケーションの取り方などに異なる傾向があることも、診察や治療の際に留意すべき点だ。

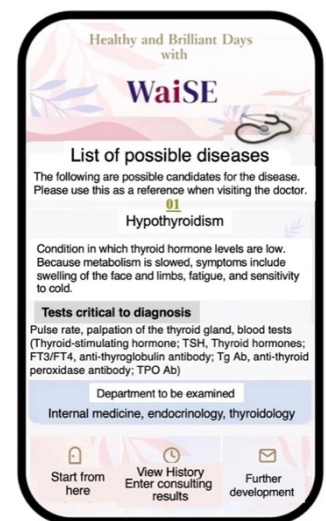
そこで近年、世界的に注目されているのが、男女の生理学的・社会的な違いを考慮し、それぞれの特性に合った診断・治療・予防を行う「性差医療」だ。この理念のもと、日本でもいくつかの医療機関が、内科や婦人科といった従来の診療科とは別に、女性の心身の問題に総合的に対処する「女性専門外来」を設置した。

女性専門外来には、日々、多様な症状を抱える女性たちが訪れる。2007年から2020年にかけて東京女子医科大学の女性専門外来(女性内科)で診察に携わっていた片井みゆき医師には、忘れられない経験がある。「のぼせや息切れなど多数の症状を訴える50代女性が複数の診療科を受診後も解決せず、遠方から受診されました。確かにそれまでに言われていた通り更年期に多い症状が主体でしたが、時々自覚する手足の痺れが「片側だけ」であることを聞き取ったため、脳疾患を疑ってMRI検査をしたところ、悪性脳腫瘍が見つかったのです」

女性の更年期は閉経前後の10年間を指し、自覚症状は多岐にわたる。更年期症状に紛れて他の重大疾患が隠れていないか見分ける必要があるが、限られた時間内で多様な症状を聞き取り、鑑別診断を行うことは容易ではない。性差医療に基づき、女性を包括的に診療する取り組みが女性専門外来だが、問診に時間がかかり採算が取りづらく、設置拡大の動きは鈍っている。

そこで、「女性が、いつでも、どこでも、誰でもが、性差医療を受けられるような仕組みを作りたい」と片井医師は考えた。

日本医療研究開発機構AMED受託事業に応募して採択され研究・開発したのが、女性専門外来での問診技術や診断プロセスを再現した、性差医療に基づく女性の診断支援アプリ「WaiSE(ワイズ)」だ。ユーザーが入力した症状の組合せから、該当する可能性が高い疾患候補とその説明、必要な検査、受診すべき科が提示される仕組みになっている。このアプリによって、これまでは女性専門外来などで時間をかけて診察しないと発見されづらかった疾患が、より効率的かつ早期に発見できるようになると期待されている。



女性向けのヘルスケアアプリ「WaiSE」の使用イメージ

WaiSE の診断システムの強みは、リアルワールドの診療経験の蓄積（女性 5241 人分）に裏打ちされている点だ。女性が症状を表現する言葉を再現し、様々な要素から病状を的確に把握し、適切な診療科への受診につなげる。2023 年度に経済産業省の補助金事業として実施した実証実験では、ユーザーから高い評価と行動変容の結果を得た。

「WaiSE は、女性が適切な診断を受けるのに役立つだけでなく、医療者にとっても性差医療を学ぶよい教育コンテンツになると考えています」と片井医師は話す。「多額の国費をかけた、公益性の高い取り組みなので、多くの方に活用していただける形での実用化を模索中です。将来的には海外にも WaiSE を展開し、多くのデータを収集しながらディープラーニングで診断精度を高めていけたらと考えています。」

すべての人が等しく医療の恩恵を受けられるようにするために、性差の視点は不可欠だ。性差医療の考え方が世の中に浸透していく過程で、WaiSE は重要な役割を果たすだろう。



片井みゆき 医師・教授

医師・医学博士で政策研究大学院大学教授、日本性差医学・医療学会理事長の片井みゆき氏。性差医療に基づく診断支援アプリ「WaiSE」の研究開発代表を務める。

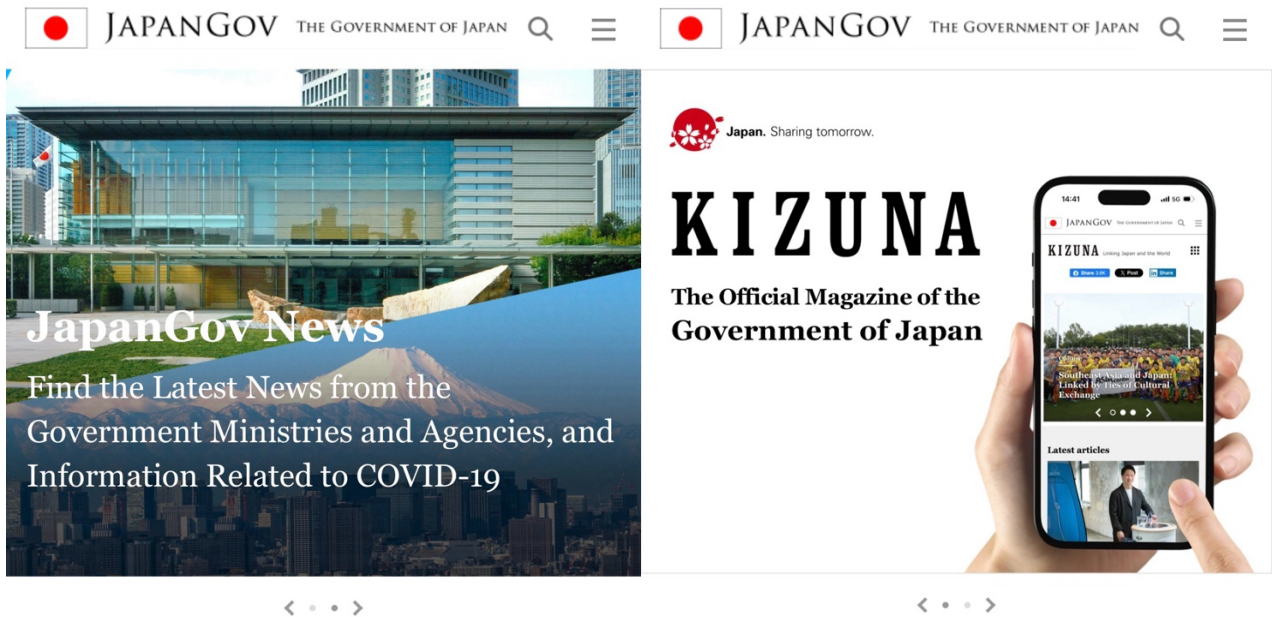
本記事ダイレクト

[https://www.japan.go.jp/kizuna/2025/03/bridging\\_the\\_gender\\_gap\\_in\\_healthcare.html](https://www.japan.go.jp/kizuna/2025/03/bridging_the_gender_gap_in_healthcare.html)

日本政府オフィシャルサイト

<https://www.japan.go.jp/>

日本政府オフィシャルサイト フロントページ画面 (スマートフォン版 2025/3/7)



Latest Articles



**Bridging the Gender Gap in Healthcare**  
A pioneering study has revealed a critical gender gap in healthcare, sparking the development of a gender-specific...  
March 7, 2025

Latest Articles



**Bridging the Gender Gap in Healthcare**  
A pioneering study has revealed a critical gender gap in healthcare, sparking the development of a gender-specific...  
March 7, 2025